

## 第 1 回福井県総合教育会議 結果概要

### ◆ 主な意見

#### <個々を伸ばす教育>

- 福井の教育の平均力は高いが、さらに次の突破力を育てることが課題である。
- 突破力はいろいろなことに関わるが、自分で考えて何かをやり、体験の中で自主性を育て職業観と結びつけるなど、ある程度の枠組みの中で自主性を伸ばしたい。
- 能力差のある生徒に同じ授業をしても、力を持て余すことがある。能力の高い生徒の力をさらに引き出す別のカリキュラムが必要ではないか。
- 都市部では能力差に応じた教育を塾でやる事が多いが、福井なら学校でやる方法を見付けられるのではないか。能力差に向き合う方法を具体化することが大事である。

#### <起業家精神>

- 学力・体力の次は起業家精神ではないか。しつけとして学ぶことができるし、外国では小学校から大学まで一連の課程として成立している。
- 福井のよさには粘り強さもある。粘り強さと起業家精神の双方を大切にしたい。
- 応用力とは決まった答えがあるものではなく、パラダイムを変える発想ではないか。

#### <大学入試制度改革>

- 大学入試制度改革に向けて早めに教員への指導と生徒への学習指導を行う必要がある。
- 福井県の高校では 1、2 年生の成績は良くても最後の突破力の部分できちんと指導できているのかが疑問である。教員自身の指導力を高めることも必要である。

#### <英語教育>

- 英語は小学校の教育内容、教員の育成から中学校の教育内容や高校入試までトータルで考えて、普通に英語で会話できるような学校教育のシステムが必要である。
- 地域のことを英語で紹介できるようにするのは効果的ではないか。丸岡城や恐竜など一定の長さの文章をとにかく話せるようにすることも大事である。
- 大学進学をしない生徒に対して、受験用ではなく実用的な英語を学ぶ機会を充実させてはどうか。新しい教育手法として県外から生徒を呼び込むことも考えられる。

### <職業教育>

- 老朽化が進んだ設備もあり、地元の企業で実際に使っている設備と合うように更新を進めて欲しい。
- 職業系の実習や実験をまとめてやることのできる最新鋭の機器を備えた第一級の施設をつくることのできないか。生徒にインパクトと刺激を与えられるような設備があるといい。企業との連携も重要である。
- 農業は農場や指導者に合わせて学校ごとに向いているかもしれない。国体などと絡めて社会性を持たせることもできる。

### <ふるさと教育>

- 地域活動はいい経験になるし、里山里海湖研究所などと連携して進めていきたい。
- 地域の祭りなど伝統行事に参加することは大切である。ふるさと教育の柱になるのではないか。

### <帰住対策>

- 県内の大学には理系の学科が少ないので、どうしても県外に出る人が増える。特に理系志望の女性の流出が多いと思う。
- 高校生の頃から県内の企業にどのような業務があるか、将来設計がしっかり立てられるような生徒と保護者双方への情報提供が必要ではないか。
- 中学・高校の頃から地元の企業を知り、仕事の中身を感じられるような体験ができるといい。早い時期の強烈な体験は意識に残る。
- 会社というより、仕事の中身として何をやるかを知らせることが大切である。

### <施策の考え方>

- 教育で新しいことをやるには、全体に影響のあるプロジェクトが必要である。
- インパクトをどのように与えるか、全体に徹底して教室の中に伝えるためには継続的に実行できるようにすることが大切である。
- システムを変えるときは速くすることが重要である。ゆっくりやると社会状況も変わるし、かえって変えない方がいい場合もある。
- 勉強やスポーツは、必ずしも格好よくやるだけで上達するわけではない。子どもたちが怒られながらも少しずつ上達していく姿勢を大切にすることが必要である。